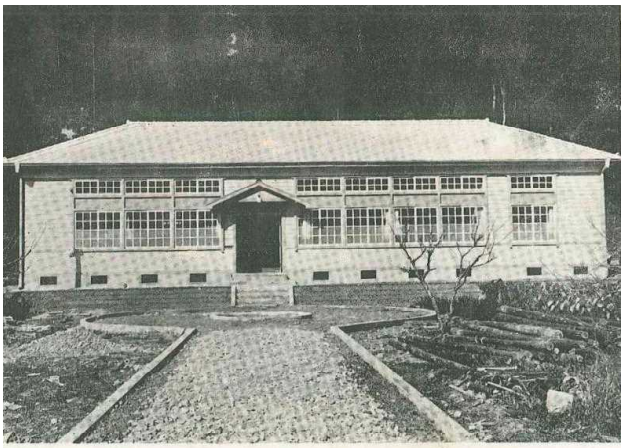
（１） 沿革

【昭和11年の設立から戦後】



（景全） 場 驗 試 業 林
（在所町池高）

和歌山県林業試験場の設立は、当時の試験場要覧に「(前略)然ルニ林業試驗場ノ如キハ特置ノ機關ヲ以ツテ永年ノ歳月ヲ以ツテ良クソノ業蹟ヲ發揮シ得ラルヽモノト認ムベク深遠ナル自然科學ノ眞髄ヲ究め本縣ノ特異性ニ順應セル合理的林業經營法の案出にツトメ本縣林業經營の羅針トナリ貢献セントスル使命ニヨリ更ニ昭和十年通常縣會ニ於テ林業試驗場費二万四千四百二圓の可決確定ヲ見昭和十一年四月一日林業試驗場ノ設置ヲ見タリ」とあり、名称並びに位置は、和歌山縣林業試験場（東牟婁郡高池町）と併設の和歌山県林業試験場木工部（西牟婁郡朝来村）が記されている。

全国的には、戦前、設立順に、鹿児島、兵庫、富山、山梨、和歌山、島根、福岡の７機関にすぎなかった公立林業試験研究機関は、第2次世界大戦後、林務行政への普及制度の導入に呼応するかのように、昭和40年代にかけてそれぞれの地域特性を生かした試験研究を行う目的で次々に誕生した。従って、全国5番目に誕生したのが和歌山県林業試験場である。

当初併設の木工部は、試験場要覧に「當試驗場木工部ハ昭和9年設置セラレシ和歌山縣木竹工藝専習所ヲ昭和十一年四月一日林業試驗場ニ移管シ木工ニ關スル試驗研究ヲ行フト同時ニ徒弟ヲ入場セシメ木竹加工ニ關スル技術ヲ修得セシムルコトセリ」とあり、技術講習も行っていたが、昭和17年3月漆器試験場として独立分離するに至ったとある。

開設当初の戦前の研究内容は、生活物資確保という当時の時代要請を反映してか、支那油桐、棕櫚、櫨などの特用樹の栽培技術や、炭材林の択伐改良、製炭技術に関する試験が中心に行われてきた。

戦後になると、植林の促進により造林関係の試験がはじまり、用材林造成、特殊樹種栽培、炭材林、病害虫関係の試験にも取り組み、椎茸栽培試験もはじまっている。同時に、戦時戦後の空白時代を経過して林業技術者の質的低下は著しいことから養成部を併設し林業技術員養成事業が実施され、地方公共団体又は林業団体の職員を対象とした林業技術練習生及び農林学校又は新制高等学校で林業に関する科目を修めた者を対象とした林業技術講習生を置いた状況も見られる。

【昭和30年代・40年代】

国では昭和32年に、林木育種の中核として国立林木育種場を設置するとともに都道府県との連携のもとに、集団選抜法の精英樹選抜育種事業が創設された。本県もこの事業に着手したのが育種事業の始まりで、その後、事業の拡大に伴い昭和36年4月に林業試験場に育種部を設置して取り組んだが、更に事業の充実を図る必要から、翌昭和37年6月林木育種場の設置規則が制定され、7月27日中辺路町内に庁舎竣工式が行われ、独立分離した。

昭和30年頃から、俗に「とびくされ」と言われるスギノアカネトラカミキリの穿孔による材質被害が特に紀南地方で問題となり、また、一方松くい虫によるマツの枯損が海岸部を中心に

広がり松林の減少が見られた。スギノアカネトラカミキリ防除の研究は、1956年にその原因が解明されてから、本県でも積極的に調査がはじまり、国庫の大型プロジェクト研究にも参加し成果を上げてきたが、防除技術の高度化や被害材の利用技術の開発などの研究が後々実施されることとなる。本県の松くい虫の研究は1962年にはじまり、国庫補助事業、県単及び委託事業として進められ、大型プロジェクト研究、情報化システム化事業を行った後、昭和62年に研究報告としてまとめられた。

【林業試験場から林業センターへ】

昭和50年代は、第28回全国植樹祭が和歌山県で開催されたが、それにさきがけ、昭和49年に西牟婁郡上富田町に和歌山県林業センターを設置し、まず、研修部門を新設した。1年後、旧林業試験場から試験研究部を移設し、総務課、試験研究部、経営調査部、研修部の1課3部体制が整った。和歌山県林業の研究と研修を担う機関となった林業センターにおいて、昭和52年4月18日、天皇皇后両陛下によるお手まき行事がとり行なわれた。

昭和60年～平成初期は、昭和61年6月にかつて林業試験場から独立分離した林木育種場が機構改革により統合し、育種事業も担うことになった。平成5年4月には試験研究部と経営調査部を森林環境部と資源利用部にする改変があり、研究テーマでは樹木やきのこのバイテク研究が主要となった。また、当時の紀州材の需要拡大を背景に資源利用部に木材部門を充実させて木材の研究が緒についたのもこの頃である。こうして、平成6年４月には林業センター２０周年を迎えることとなる。

【和歌山県農林水産総合技術センターへ統合】

平成10年4月、行政改革により県内の農林水産関係研究機関がすべて和歌山県農林水産総合技術センターに統合された。林業センターも新たな体制に組み込まれ、研究の一体的推進と事務の集中化が実施された。

平成14年4月には林業センターから林業試験場への名称変更と併せて、県山村産業試験場の業務移管による特用林産部の新設と林木育種場が中辺路試験地に改名改組された。平成15年4月に研修部門が別組織として独立、平成16年4月に総務課の廃止と副場長制の導入により経営環境部、木材利用部、特用林産部の現行3部体制が整った。

【再び県林業試験場へ名称変更と組織改正】

平成24年4月、組織改正で農林水産総合技術センター制が廃止され各試験場の独立に伴い和歌山県林業試験場と改名された。併せて、農林水産の研究推進を統括する研究推進室が農林水産総務課に新設された。予算に関しては、県単の農林水産業競争力アップ技術開発事業の開始により研究テーマの募集を基に研究課題を決定する仕組みに移行した。初年度は「紀州材の太陽熱乾燥技術に関する研究」が採択された。その後も毎年、数課題が採択され、現在、5課題に取り組んでいるところである。また、平成28年度からは、研究シーズや長期のデータ蓄積が必要な新規の研究事業として、県単の農林水産基礎研究が始まり、紀州材利用、林木育種、山村地域資源活用の3課題に取り組むこととなった。

【研究テーマ設定と研究成果の公報】

これまで、研究テーマの設定については、各時代の課題を取り上げてきたが、特に林業センター設置後の昭和52年度より林業技術開発推進協議会（委員十数名）を開催し、当面する課題や地域ニーズの把握に努めてきた。また、最近では、提案課題等について効率的に研究推進するため専門分野の助言等も得ている。

研究成果については、毎年度『業務報告』としてとりまとめ公表しており、昭和10年11月発刊の林業試験報告第一号（予報号）から、戦中戦後を除き、本年度は80周年記念誌を併載した『業務報告No73』を発刊することとなった。学術的論文は『研究報告』に掲載し文献としての活用を図っている。広報では、関係者や一般にも広く知ってもらえるよう平成53年4月に『林業センターだより』を創刊し、現在、『林業試験場だより第77号』(A4カラー版全8頁)に至っている。更に、最新情報をお知らせすべく、平成28年度から『やまびこ通信創刊号』をホームページに掲載することとした。

【県農林大学校林業研修部に研修部門を移管】

研修部門については、平成23年4月に林業試験場に復活したことにより、木材利用部に研修担当を配置してきた。しかし、今日の社会情勢から林業経営を担う人材育成の強化のため、平成29年度から和歌山県農林大学校に新設された林業研修部に移管することとなっている。

【試験研究の推進方針】

最後に、和歌山県の森林林業技術の公的研究機関として、下記の「試験研究の推進方針」をもって研究員共々、今日の課題に取り組んでいることを記す。

「森林資源が充実する中、資源の循環利用を図りながら、紀州材の増産を促進するため、生産性の高い林業・木材産業づくりをめざし、低コスト、省力化となる森林施業技術の開発・実証を行うとともに、紀州材の特質を活かす加工技術の確立や新用途の開発を行う。また、多様で健全な森林づくりのため、有用な品種の開発や育成・種の保存、病虫獣害の対策技術を開発、さらに、山村地域の活性化のため、山村資源である特用林産物の活用技術の開発を行う。」

（２）年譜

年月日	記　　事
昭　和	
11.4.1	東牟婁郡古座川町高池（当時高池町）に和歌山県林業試験場を設立
	西牟婁郡上富田町朝来（当時朝来村）に和歌山県林業試験場木工部を併設
17.3	木工部は漆器試験場として独立分離
24.4	養成部を配置
33	設置規則の改正により1課2部制（庶務課、造林部、林産部）となる
36.3.8	試験場の育種部門の分場として林木育種場を西牟婁郡中辺路町栗栖川に併設
37.7.1	林木育種場が独立し、和歌山県林木育種場として設置
37	保護部が設置され、1課3部制となる
42.4.1	「全国林業試験研究機関協議会」発足
49.4.1	研修部門を新設し、西牟婁郡上富田町生馬に和歌山県林業センターとして設置、試験研究部を当分の間、古座川町高池に置く
49.6	研修部、講習課程を開始
50.5	試験研究部を移設し、1課3部体制（総務課、経営調査部含む）が整う
51.12	浩宮徳仁親王殿下御来所
52.4.18	第28回全国植樹祭お手まき行事が行われた
53.3	第28回全国植樹祭お手まき行事記念碑建立
53.4	林業センターだより創刊号発刊
56.6	第１回基幹林業作業士（グリーンマイスター）研修開始
58.2	上富田町田熊地内に試験林を設置
59.5	林業センター10周年『10年のあゆみ』発行
61.6.1	和歌山県林木育種場を統合
61.6	第1回グリーンワーカー育成研修開始
平　成	
5.4	試験研究部を森林環境部、経営調査部を資源利用部に改編
6.5	林業センター20周年『20年のあゆみ』発行
10.4.1	和歌山県農林水産総合技術センター・林業センターとなる
	特用林産部門を和歌山県山村産業試験場に移転
14.4.1	和歌山県農林水産総合技術センター・林業試験場に改名
	林木育種場を中辺路試験地に改組
	特用林産部門を併合し、1課3部制となる
15.4.1	研修部門を独立・別組織とし、試験研究のみの組織になる
16.4.1	総務課を廃止、副場長制度を導入
23.4.1	木材利用部に研修担当を配置
23.5.22	第62回全国植樹祭開催（田辺市新庄総合公園）
24.4.1	和歌山県林業試験場に改名
28.4.1	林業試験場80周年

＜参考文献＞

和歌山県林業試験場：和歌山県林業試験場要覧、昭和12年
全国林業試験研究機関協議会事務局：全国林業試験研究機関協議会四十周年記念誌、平成19年
和歌山県林業試験場：和歌山県林業試験場概要、昭和27年
和歌山県林業センター：林業センター10年のあゆみ、1984
和歌山県山村産業試験場：山村産業試験場20年のあゆみ、1984
和歌山県林木育種場：「林木育種事業22年の歩み」育種々子と育種苗、1984
萩原進、小南全良：和歌山県における松食い虫によるマツの枯損と防除に関する研究、和歌山県林業センター研究報告第1号、p1、1987
萩原進：スギ・ヒノキ穿孔性害虫被害とその防除(8)スギノアカネトラカミキリの被害と環境、森林防疫Vol.39No7、p2-7、1990
和歌山県林業センター：林業センター20年のあゆみ、1994